

百人一首の恋の歌

住の江の岸に寄る波よるさへや

夢の通路人目よくらむ

藤原敏行

風をいたみ岩うつ波のおのれのみ

くだけでものを思ふころかな

源重之

明けぬれば暮るものとは知りながら

なほうらめしき朝ぼらけかな

藤原道信

なげきつつひとり寝る夜の明くるまは

いかに久しきものとかは知る

右大将道綱の母

わすれじの行く末まではかたければ

今日をかぎりの命ともがな

儀同三司母

玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば

忍ぶることの弱りもぞする

式子内親王

百人一首の恋の歌①

文学としての和歌：身分の高い人たちにとっての教養としての和歌。

○公的な場での披露：（ ）など。

○和歌集の編纂

私撰和歌集：個人的に和歌を集めたもの。

（ ）和歌集：天皇の命によって編纂されたもの

古今和歌集

後撰和歌集

拾遺和歌集

後拾遺和歌集

金葉和歌集

詞花和歌集

千載和歌集

新古今和歌集

三代集

八代集

贈答歌としての和歌：個人の間で贈り合い気持ちを伝えあっていたもの。
○自然・恋愛・雑感など

和歌の修辞

枕詞：後に続く語の意味や音に関係する五文字。
あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る

序詞：後に続く語の意味や音に関係する語を文字数に関係なく提示するもの。
みかの原わきて流るるいづみ川いつ見きとてか恋しかるらむ

掛詞：一つの言葉で二つの意味を持つ語。
立ちわかれないなばの山の峰に生ふるまつとし聞かば今帰り来む

縁語：一首中のある語と密接な関係を持つ語。
青柳の糸よりかくる春しもぞ乱れて春のほころびにける

本歌取り：古歌の特徴的な語句をもとにして一種を作る方法。

本歌：み吉野の山の白雪積もるらしふるさと寒くなりまさるなり
本歌取り：み吉野の山の秋風さ夜更けてふるさと寒く衣うつなり

百人一首の恋の歌②

Q 古典における和歌と現代の通信手段（ケータイメール）の共通点や相違点について考えよう。

相違点

項目	和歌	ケータイ
伝達方法		
伝達にかかる時間		
距離		
文字		
情報量		

共通点

Q ケータイメールの特徴を活かしたメール本文（五十字以内）を作成してみよう。

シチュエーション

--

1	2	3
4	5	6
7	8	9
*	0	#

自己評価（工夫した点、見て欲しい点、感想など）



相互評価

評価者					
感想・気づいたこと					

百人一首の恋の歌①

文学としての和歌：身分の高い人たちにとっての教養としての和歌。

○公的な場での披露：（歌合）など。

○和歌集の編纂

私撰和歌集：個人的に和歌を集めたもの。

（撰）和歌集：天皇の命によって編纂されたもの

古今和歌集

後撰和歌集

拾遺和歌集

後拾遺和歌集

金葉和歌集

詞花和歌集

千載和歌集

新古今和歌集

三代集

八代集

贈答歌としての和歌：個人の間で贈り合い気持ちを伝えあっていたもの。

○自然・恋愛・雑感など

和歌の修辞

枕詞：後に続く語の意味や音に關係する五文字。

あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る

（じよことば）

序詞：後に続く語の意味や音に關係する語を文字数に關係なく提示するもの。

みかの原わきて流るるいづみ川いつ見きとてか恋しかるらむ

（かけことば）

掛詞：一つの言葉で二つの意味を持つ語。

立ちわかれいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かば今帰り来む

（えんご）

縁語：一首中のある語と密接な關係を持つ語。

青柳の糸よりかくる春しもぞ乱れて春のほころびにける

（ほんかどり）

本歌取り：古歌の特徴的な語句をもとにして一種を作る方法。

本歌：み吉野の山の白雪積もるらしふるさと寒くなりまさるなり

本歌取り：み吉野の山の秋風さ夜更けてふるさと寒く夜うつなり

百人一首の恋の歌②

Q 古典における和歌と現代の通信手段（ケータイメール）の共通点や相違点について考えよう。

相違点

項目	和歌	ケータイ
伝達方法	使いの者が届ける	当事者同士
伝達にかかる時間	長い	一瞬
距離	近い	電波の届く限り
現方法	手書き・文字のみ	デジタル・絵文字・写真など
情報量	三十一文字	容量の許す限り

共通点

※相手に伝えたいという気持ちには共通のものがある。など

Q ケータイメールの特徴を活かしたメール本文（五十字以内）を作成してみよう。

シチュエーション

1	2	3
4	5	6
7	8	9
*	0	#

自己評価（工夫した点、見て欲しい点、感想など）



相互評価

評価者				
感想・気づいたこと				